

甲斐のさくら

視察研修報告書

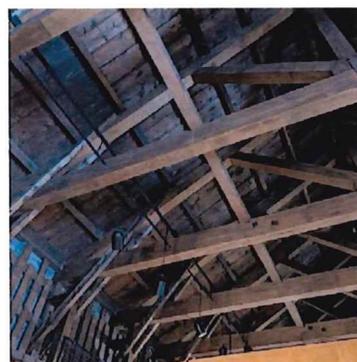
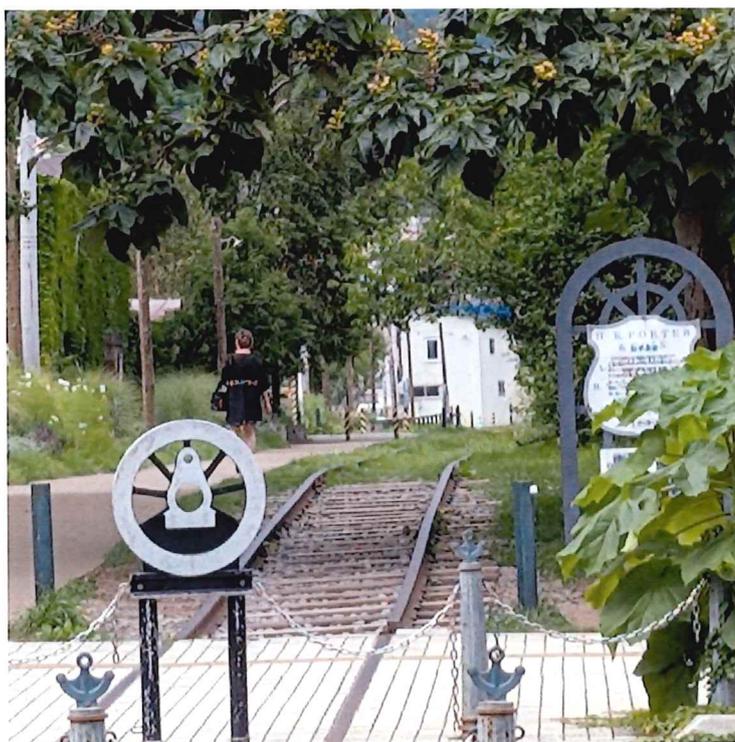
日時 令和7年8月26日～29日

視察先 第20回全国市議会議長会研究フォーラム

小樽市総合博物館・運河館・小樽芸術村他

参加者 滝川美幸 若尾彰子 依田那津希

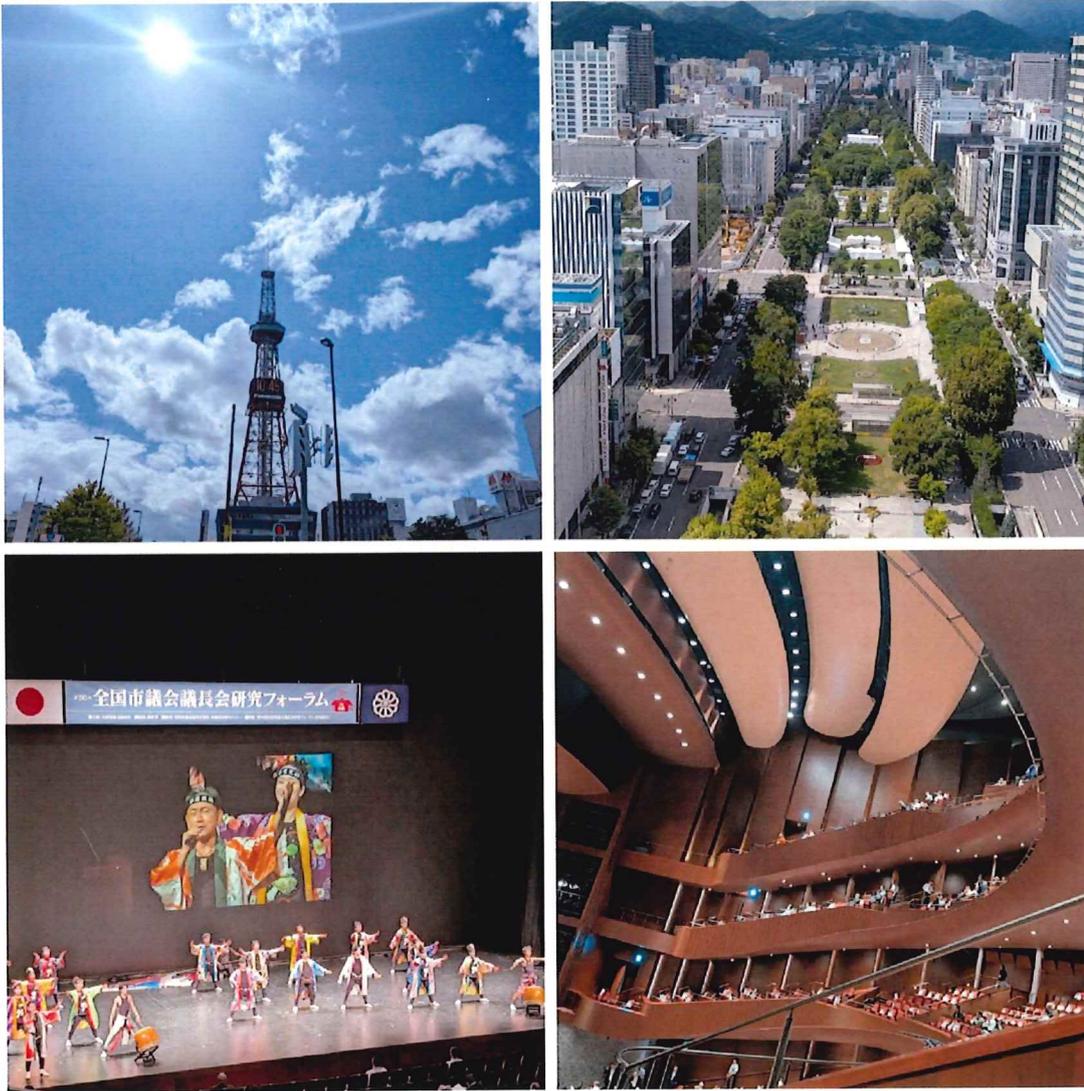
1日目(8月26日) 小樽市総合博物館 運河館 小樽芸術村等



小樽運河等北海道の発展の拠点となった都市の歴史について学ぶ。

物資の輸送手段とし、運河の利用をすることで船から大きな物資を運び込むことが容易となったことで貿易に強い都市となった小樽。貿易の発展により経済が活性化し金融業が栄えることとなった。運河に代わって、他の輸送が発達した後は運河を観光資源として歴史とともに新たな観光資源となっている。また、甲斐市同様自動運転によるEVバスの実証実験を行っており新しい技術の取入れも積極的におこなわれている。比較的小型の車体は観光地の景観にも溶け込みやすいように感じた。

2日目(8月27日) 札幌テレビ塔 全国市議会議長会研究フォーラム



フォーラム開催時間までの間、さっぽろテレビ塔・大通り公園・時計台等の施設見学

午後からのフォーラムでは、札幌文化芸術劇場 hitaru にて

地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けてと題し、主権者教育あり方について学ぶ。

第一部 基調講演 伊吹 文明 氏

第二部 パネルディスカッション

各都市の問題点等、実例をふまえてのディスカッションは市町村ごとに差はあるものの

なり手不足という共通の問題点に人材確保に関する課題や認識について共有した。

3日目(8月28日) 午前 全国市議会議長会研究フォーラム

午後 分科会 レガシーが紡ぐ札幌の歴史

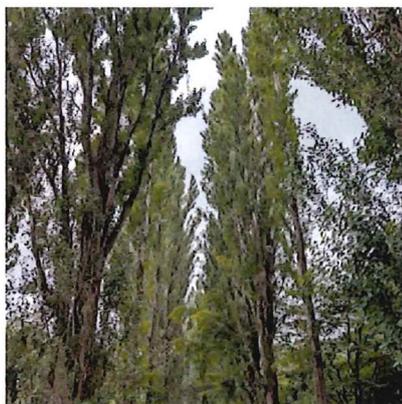
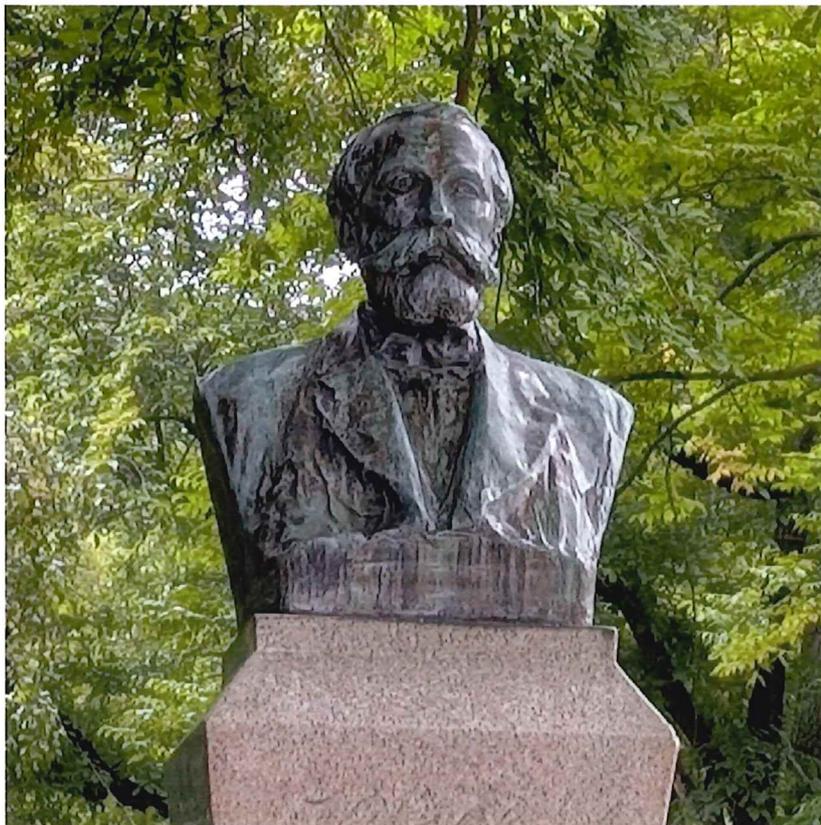


午前 課題討議 地方議員のなり手不足問題の取り組み報告

初日同様、議員のなり手不足にスポットを当てながらも議員のイメージについて、若者世代や女性が積極的にチャレンジしやすい環境づくり等の取り組みについて事例報告を受ける。

午後からの分科会では現地視察として大倉山ジャンプ競技場・札幌オリンピックミュージアムにて金メダリストの阿部氏による説明を受けながら、競技者のより良い環境づくり等について話を伺う。実物の金メダルを首にかけてくださり、メダルの重さとともに日の丸を背負う重圧を感じることができた。北海道赤レンガ庁舎では、7月25日にリニューアルオープンを迎えたばかりの館内を丁寧にご説明いただき、北海道の歴史にとって切っても切れない北方領土の問題、またアイヌ文化についてジオラマ展示などで学んだ。

4日目(8月29日) 北海道大学他



北海道大学を見学、大学が一つの町のように広大な敷地には様々な学びの場が立ち並ぶ。

また、ここには有名なクラーク博士像もあり「少年よ大志を抱け」の名言の通り、大志を抱いた学生たちが学んでいた。生徒、教職員を合わせると2万2千人にもなるとのこと、2023年の数字となるが、生徒の男女比は男性70%女性30%。学部によってばらつきがあり、工学部では、女子学生比率を高める取り組みが行われているとのこと。2026年には創基150周年を控えてもなお、ポプラ並木や学内の建物等古きを大切にしながら新しい取り組みを行

っていることに未来を感じた。貴重な研究資料等の展示には、地元の幼稚園児が見学に来ており、こうした経験を経て未来の研究者は誕生していくのかもしれないと感じた。

最後に、新千歳空港内にはハローキティのハッピーフライトがあり、キャビンアテンダントになったハローキティと一緒にキティジェットに乗って、世界中をめぐる体験ができるアトラクションがあった。限定メニューや限定グッズ等で人気の様子を見て、本市におけるミュージアムのオープンに向けて参考となる点も多々見られた。サンリオの人気は国籍・年齢を問わずであることから本市の独自性なども加えた展示等で差別化を図れる施設となるよう改めて思うところであった。